

詳細調査の評価項目について（第7回選定委員会後）

対象区域調査における比較評価項目の設定

(1) 目的

名取市で抽出された5つの建設予定区域について相対評価を行うための比較評価項目を設定する。

(2) 比較評価項目

比較評価項目は、「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理要領」、平成20年度、平成25年度、令和3年度に亘り名取共立衛生処理組合が実施した候補地選定業務における項目や他事例（宮城県産業廃棄物最終処分場整備に係る候補地選定等）で設定されている評価項目を参考に設定する。

(3) 評価基準

比較評価では、建設予定区域の適正度が「高い◎・普通○・低い△」の3段階で評価するものとし、評価にあたっては、定量的に示せる項目は数値で示し、定量的に示せない項目は評価に対するコメントを明記する。また、評価基準は対象地の評価を開始した以降は変更しないものとする。

なお、評価の過程で別表以外に重要な評価項目が判明した場合には、評価項目とせず、その他に記載し、候補地を決定する段階で考慮するものとする。

表 比較評価項目と評価基準

大項目	評価項目	評価基準
(1) 社会条件	①土地利用上法規制	土地利用上の規制区域の有無を確認し、規制等がある場合は必要な許認可、法規制解除の容易さで評価する。 ・適合度が高い (◎)：規制等が無い。 ・適合度が普通 (○)：規制等があるが、必要な許認可、法規制解除に時間を要する可能性が低い。 ・適合度が低い (△)：規制等があり、必要な許認可、法規制解除に時間を要する可能性が高い。
	②景観への影響	周辺にある公園や人々が集まる場所からの景観への影響で評価する。 ・適合度が高い (◎)：影響がほぼない。 ・適合度が普通 (○)：影響はあるが小さい。 ・適合度が低い (△)：影響がかなり大きい。
	③運搬時の住環境への影響	岩沼東部環境センターからの最適ルートを設定し、主要道路以外を対象に、住宅戸数やスクールゾーン、狹隘道路の有無で評価する。 ・適合度が高い (◎)：住宅、スクールゾーン、狹隘道路が運搬経路にない。 ・適合度が普通 (○)：住宅戸数が5箇所の中で比較して少なく、スクールゾーン、狹隘道路が運搬経路にない。 ・適合度が低い (△)：住宅戸数が5箇所の中で比較して多い、またはスクールゾーンや狹隘道路を通行する。
(2) 自然条件	④災害危険性 (土地自身の持つ特性による影響要因)	防災面に係る法規制等の状況、災害履歴の有無、活断層との位置関係で評価する。 ・適合度が高い (◎)：建設予定区域及びその周辺の法規制、災害履歴が無い。かつ、活断層からの距離が1km以上離れている。 ・適合度が普通 (○)：建設予定区域及びその周辺に法規制、災害履歴があるが配置計画等で対応が可能。かつ、活断層からの距離が1km以上離れている。 ・適合度が低い (△)：建設予定区域及びその周辺に法規制、災害履歴があり配置計画等での対応が難しい。また、活断層からの距離が1km未満にある。

大項目	評価項目	評価基準
	⑤災害危険性 (大雨)	建設予定区域の流域面積比率（雨水流域面積/敷地面積）の大小で評価する。 ・適合度が高い（◎）：流域面積比率は5箇所の中で比較して小さい。 ・適合度が普通（○）：流域面積比率は5箇所の中で平均的。 ・適合度が低い（△）：流域面積比率は5箇所の中で比較して大きい。
	⑥災害危険性 (洪水)	建設予定区域のハザードマップの浸水想定最大規模による浸水深で評価する。 ・適合度が高い（◎）：浸水想定最大規模の範囲外となっている。 ・適合度が普通（○）：浸水想定最大規模の浸水深が3m未満。 ・適合度が低い（△）：浸水想定最大規模の浸水深が3m以上。
	⑦災害危険性 (津波)	建設予定区域のハザードマップの津波浸水想定による浸水深で評価する。 ・適合度が高い（◎）：津波浸水想定範囲外となっている。 ・適合度が普通（○）：津波浸水想定範囲の浸水深が5m未満。 ・適合度が低い（△）：津波浸水想定範囲の浸水深が5m以上。
	⑧希少動植物	文献調査を行い、建設予定区域の希少動植物の生息の可能性の有無で評価する。 ・適合度が高い（◎）：建設予定区域で生息・生育が確認されていない。 ・適合度が低い（△）：建設予定区域で生息している可能性がある。
	⑨自然改変度	建設予定区域の植生自然度で評価する。 ・適合度が高い（◎）：植生自然度が3以下で占められている。 ・適合度が普通（○）：植生自然度が6以下で占められている。 ・適合度が低い（△）：植生自然度が7以上の植生がある。
(3) 建設条件	⑩施設配置	施設配置の現実性、埋立容量の確保性、埋立効率性（埋立容量/埋立面積）で評価する。 ・適合度が高い（◎）：現実的な配置で埋立容量が確保でき、埋立効率が10以上である。 ・適合度が普通（○）：現実的な配置で埋立容量は確保でき、埋立効率が10未満である。 ・適合度が低い（△）：現実的な配置での埋立容量の確保が困難。

調査結果を踏まえて
評価基準を明確化する

大項目	評価項目	評価基準
	⑪跡地利用	計画埋立容量に到達した後の跡地利用を検討するにあたっての優位性で評価する。 ・適合度が高い（◎）：主要道路（国道または主要地方道）交差点からの経路距離が1 km以内。 ・適合度が普通（○）：主要道路（国道または主要地方道）交差点からの経路距離が3 km未満。 ・適合度が低い（△）：主要道路（国道または主要地方道）交差点からの経路距離が3 km以上。
(4) 経済性	⑫概算整備費	概算整備費の大小で評価する。 ・適合度が高い（◎）：5 か所内で安価。 ・適合度が普通（○）：5 か所内で平均程度。 ・適合度が低い（△）：5 か所内で高価。 調査結果を踏まえて 評価基準を明確化する
	⑬概算維持管理費	概算維持管理費の大小で評価する。 ・適合度が高い（◎）：5 か所内で安価。 ・適合度が普通（○）：5 か所内で平均程度。 ・適合度が低い（△）：5 か所内で高価。 調査結果を踏まえて 評価基準を明確化する
(5) 用地取得	⑭土地利用状況	現在の土地利用状況で評価する。 ・適合度が高い（◎）：土地利用がされていない。 ・適合度が普通（○）：候補地の一部が土地利用されている。 ・適合度が低い（△）：候補地の大半が土地利用されている。 調査結果を踏まえて 評価基準を明確化する
	⑮用地取得の難易性	地権者数で評価する。 ・適合度が高い（◎）：地権者数は5 箇所の中で比較して少ない。 ・適合度が普通（○）：地権者数は5 箇所の中で平均的。 ・適合度が低い（△）：地権者数は5 箇所の中で比較して多い。 調査結果を踏まえて 評価基準を明確化する
(6) その他	⑯その他の課題	建設予定区域ごとに施設整備・運営を行う上で、その他の課題を記載する。